# 学校図書館教育全体計画

加古川市立義務教育学校両荘みらい学園

教育課程の展開に寄与する
四空間を持つ学校図書館

### 読書センターとして

学校図書館は、児童・生徒の創造力を培い、学習に対する興味・関心等を呼び起こし、豊かな心をはぐくむ自由な読書活動や読書 指導の場である「読書センター」としての機能を果たす。
心安らぐ場であるとともに、INPUTの読書から、話し合いと欲求によるOUTPUTの読書活動（読書指導）を個の読書レベルに応じてらせん状に行うことで、知的好奇心を醸成する学びの場を提供する。

### 学習センター・情報センターとして

学校図書館は、児童・生徒の自発的、主体的で多様な学習活動を支援するとともに、ICTの活用による情報の収集・選択・活用能力、表現能力を育成して「学習・情報センター」としての機能を果たす。支援として指導者に必要な資料を提供する。
求められる力（言語能力、情報活用能力、課題設定・解決能力）を育成するため、多様な文章を正しく読み解く読解力の基礎となるメディアミックスバランスのとれたコレクションを形成して協働的な学びの場を提供する。

## 学校教育目標

ふるさとを愛し、こころ豊かに学びあう子どもの育成

## めざすこどもの姿

・学び方を身につけ、学びを楽しむ子
・仲間とのつながりの中で自分の良さを発見し自信を持って行動する子
・自ら課題を発見し、主体的・協働的に解決を目指そうとする子
・多様性を受入、自他の生命を尊重して自らよりよく生きようとする子
・地域を愛すると共に、グローバルに生きる力を身につけようとする子

## 図書館教育によってめざすこどもの姿

○自己肯定感、知る楽しみを持って読書活動を楽しめる子
○読書活動を通して「価値」の構築ができる子
○自らの課題を解決するための図書館資料（メディアミックス）等を収集・選択し活用（表現）することや、図書館の「場」を活用できる子
○同学年、異学年による協働学習に建設的態度で参加できる子

## 図書館教育の目標

○主体的にメディアを活用し、質の良い読書活動で豊かな心を培う。
○多様な学び方と選択の自由を保障しながら、協働的に課題に向きあう生涯学習につながる「学び」の基礎を作る。
○言語能力・情報活用能力・課題解決力の育成を支える場として図書館を活用する。

### 学校図書館の評価

PDCAサイクルとして評価する

・図書館の利用による読書活動の成果を指導者にフィードバックする。
・必要図書と要求図書のバランスとその効果を検証する。
・INPUTからOUTPUTの読書による成果物を活用する。
・個に応じたOUTCOME高める。
・多様な「場」を提供する。
・司書教諭、学校司書の教育的支援を充実させる。

### 司書教諭の役割

・全体計画、運営計画、指導計画を作成
・図書館での読書活動の指導
（読み語り、ブックトーク、アニマシオン、ストーリーテリング、レファレンス、読書記録の指導、ICTを活用した指導 等）
・学習活動の展開を支援する資料提供（パスファインダー、図書の提供等）
・学校司書との連携（教育的支援）

### 家庭・地域との連携

・図書館での学びや情報の公開
「図書便り」、図書館の開放など
・家読（うちどく）の推進
・地域資料のファイリング
・MLAやCLC連携

## 各学年の重点目標

| | 1st stage | 2nd stage | 3rd stage |
|---|---|---|---|
| 学び方指導 | 興味や関心を持ったことなどの課題を自ら設定し、進んで学校図書館を利用して事典や図鑑、パスファインダーなどから情報を得て分かったことなどをまとめてわかりやすく説明することができる。<br>比較を交えて共感や考え、自分にとっての価値を発表できる。 | 課題を設定し、それを追究するために積極的に学校図書館を利用して、複数の本や新聞、パスファインダー、レファレンス等を活用して調べたりまとめて報告したりすることができる。<br>情報に対しての批判や共感の根拠を資料から挙げて発表できる。 | 自ら課題を設定し、それを追究するために計画的に学校図書館を利用し、パスファインダーやレファレンスから多様な情報を得て考えたことを報告したり資料にまとめたりすることができる。<br>利活用を通して、現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考え主体的に学習することができる。 |
| 読書指導 | シリーズや同じ作者の本、同じテーマでちがうに興味を持ち、展開や人物の行動の変化を楽しんで進んで読書をすることができる。<br>自分の経験、他者の感想などと比べて「動機・魅力・価値」の構成で感想をまとめることができる。 | 適切な読み物を選び、読書を通して心情を豊かにしたり、考えを深めたりすることができる。<br>作者の伝えたいことや物語からのメッセージについて解釈し、交流によってさらに読み深めることができる。「動機・魅力・評価」の構成で感想をまとめることができる。 | 現代文、古典、随筆、物語など様々な文章を読んで、自分の表現に役立てた創作活動に発展させることができる。<br>主題や作者などをテーマにしたブックトークなどの読書活動を行うことができる。 |

## 情報・メディアを活用する学び方の指導体系

| | 学習と情報とメディア | 学習に役立つメディアの利用 | 情報の活用の仕方 | 学習結果のまとめ方と情報発信 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○学習計画の立て方を知る<br>○利用法を知る（NDC・配架の仕組み）<br>○情報・メディアの活用法を知る（情報リテラシー・端末の操作） | ○学校図書館を利用する<br>○課題に応じてメディアを利用する（図鑑、事典、新聞、印刷メディア、電子メディア等図書資料） | ○情報を集める（人的情報資源、パスファインダーの活用、資料リストの作成）<br>○情報の取り方、抜き出し方、使用上の留意点を知る（画像、メモのまとめ方、著作権） | ○学習したことを相手や目的に応じてまとめ、発表する（口頭、紙芝居、クイズ、発表会、新聞、展示など）<br>○より効果的に伝えるためにICT機器を活用する（画像提示、プレゼン） |
| 2 | ○課題をつかむ・学習計画を立てる<br>○情報・メディアの活用法を知る（情報リテラシー・多種文化施設の利用） | ○学校図書館、他の施設を利用する<br>○目的に応じて複数メディアを効果的に利用する | ○情報を比較し、評価する（レファレンスサービスの活用）<br>○利用上の留意点を知る（情報源の記録 ） | ○学習の過程と結果を評価する（相互評価、自己評価）<br>○学習したことを相手や目的に応じてまとめ、目的に応じた方法で発表する（新聞、発表会、端末の活用など） |
| 3 | ○課題を設定する<br>○課題解決のための情報・メディアの活用法を検討する | ○効果的に学校図書館を利用し、他の施設も利用する<br>○メディアの特質を生かして活用する | ○複数の情報を記録、分析評価する（レファレンスサービス、レファラルサービスの活用）<br>○情報の扱い方を知る（引用、出典、情報モラル） | ○学習の過程と結果を評価する（相互評価、自己評価）<br>○学習の成果を相手や目的に応じてまとめ、目的に応じた方法で発表する（新聞、発表会、端末の活用など） |

## 具体的な取り組み〈教科を横断するカリキュラムマネジメントにつなげる〉

### 教科

○課題解決学習・調べ学習・個別指導やグループ学習など様々な形式の「学びの場」として図書館の3つの機能を活用する。
○情報活用能力を育成する。
○学びの個性化をふまえた読書指導を行い、進んで読書をする態度を養う。
○話し合いと欲求によるらせん状の学びの積み重ねができる授業を構成する。

### 特別の教科道徳

○ 図書資料を通して、様々な生き方や考え方に接する中で自分の考えを深め、道徳的心情を養う。

○物語の空白部分を想像することで、自分以外の価値や価値判断について理解する。

### 特別活動

○学校図書館の利用の仕方や情報の適切な活用の仕方を身につける。
○読書週間、たてわり班での読書活動等に積極的に参加することで、目的に応じた読書活動への関心・意欲をもつ。
○図書委員会を中心に自発的に図書館運営に参画し、読書活動を展開する。

### 総合的な学習の時間

○図書や資料、新聞パンフレット等を各学年の学習内容に合わせて活用する。
○課題の探求、解決に向けて多様な方法で取り組むことで情報を収集、選択、活用する能力を育成する。
○図書館を活用して情報活用能力を育成する学習を系統的に実践し、「学び方」を学ぶ。
○具体的に展開するキャリア教育に活用する。

### 関連資料

○ 小学校学習指導要領　○学校図書館法
○ 学校図書館ガイドライン　○学校図書館メディア基準
○第6次学校図書館整備等5か年計画
○子どもの読書活動の推進に関する法律（第5次推進計画）

「場」としての「図書館の四空間」
Inspiration・Meeting・Creative・Learning
わくわく・出会い・創造・学び

# 令和８年度　学校図書館教育運営計画
## ～豊かに生きるこころを育む～

義務教育学校両荘みらい学園

### 1　運営目標　（読書センター、学習・情報センターとして）

**一人ひとりの「（Inspiration　（わくわく）・Creative」（創作）・Meeting　（出会い）・Learning（学び）の場」＋「居場所」とする**

- 図書資料と学習者をつなぐとともに、読書の楽しさを味わい進んで読書をすることで言語能力とともに思考力や表現力、感性を育てる。
- 図書資料の利用の仕方を習得させ、学習に必要な情報を収集・選択して学びに生かせるように活用能力を育てる。
- 単元指導計画（学校図書館年間指導計画）と連動して、指導者との連携をとって学びの質を高める指導に必要な図書資料（関連図書、パスファインダー）を提供する。
- 自己肯定感の涵養や他者理解につながる読書活動を進めるとともに、自分一人ではできない価値の発見となる交流の場を設定する。

### 2　運営計画・活動計画

① 要求図書と必要図書の配分を考えながら本の排架と適切な廃棄を行い、魅力のある図書館活動を支援できるコレクションの形成をする。
② 「見える到達目標」として異学年の読書活動の成果を掲示し、活用する。
③ ICT 機器を効果的に活用して、ビブリオトークや感想交流などのOUTPUT 読書を充実させる。
④ 「本はともだち（読書ファイル）」で、必要な情報を得たり読書の記録をつけたりして、自発的な読書活動をすすめる。
⑤ 読書週間を、春（または夏）と秋に設け「読書イベント」などで読書活動への関心を高める。
⑥ メディアミックスでのバランスのとれた情報活用能力を高める。
⑦ 啓発や作業など、運営に参画する満足感を得られる図書委員会の活動を行う。
⑧ 図書館が身近にある学校生活を創造する。（登校時、休み時間　等）

### 3　読書活動を推進するための基礎的な力を育てる

「学校図書館情報活用能力系統表」参照

**1st stage**
①マナーやルールなど基本的な利用の仕方を知る。
②NDC 分類を知り、読書を楽しんだり知識を得たりするために、本を選んで読むことができる。
③選書の理由や読んだ感想を話すことができる。

**2nd stage**
①目的に応じて、多様な本を選んで読むことができる。
②印刷メディアに加えて電子メディアから図書資料を収集選択して利用することができる。
③引用や比較をしながら魅力を表現し、自分にとっての影響を話す交流ができる。

**3rd stage**
①目的に応じて、複数の本を選んで比べて読むことができる。
②請求番号と日本十進分類法（NDC）の仕組みを知り、目的にあった資料の選択、図書資料・
③心に響く言葉や価値判断を交えながら魅力を表現し、交流を通してより深める。

**すべてのstageにおいて**
①図書館利用教育をする。
図書館活用の基礎となるNDC分類（類目のみ）を理解する。
図書以外の資料（メディアミックス）を利用して表現することができる。
②ビブリオトーク等のOUTPUTの読書を行うことで、選書や発表内容の構成を工夫した交流活動を活性化する。
③学びを深める刺激となる異学年での読書活動の交流の「場」を設ける。
④OUTCOMEにつながる教科、学年、時間をこえた「居場所」になるようにする。

| NDC番号 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | E |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 分類内容 | 図鑑<br>総記 | 道徳 | 歴史<br>地理 | くらし<br>政治 | 科学<br>理科 | 算数<br>家庭 | 産業<br>仕事 | 図工<br>遊び | ことば<br>詩 | 読み物 | 絵本 |

### 4　一人ひとりの学びをサポートする

パネルサインやポップなどで所在を明らかにする。
効果的な読書活動を進めていくために必要図書をリストアップする。
ブックトーク・パスファインダーを活用して多様なニーズに応じた読書活動・学習活動を展開する。

### 5　図書の貸し出し（貸出カード）・返却・閲覧

授業時間　　業間休み・昼休み　朝の図書館活動　…　図書委員、司書教諭、学校司書のいるとき

### 6　公共図書館、地域開放図書館および家庭との連携

公共図書館の団体貸し出しや地域開放図書館を教育的支援に活用する。大階段の成果物の開放展示をする。

### 7　教師間の連携

教科や教科を横断したカリキュラムマネジメントとして年間計画「豊かな読書活動の広がり」を作成・検討する。

# 両荘みらい学園　学校図書館　情報活用能力系統表

義務教育学校両荘みらい学園

| 学年 | First Stage | | Second Stage | Third Stage | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 1・2年生 | 3・4年生 | 5・6年生 | 7年生 | 8・9年生 |
| 育てたい子ども像 | ◆読書や調べる楽しさを知り、図書館の正しい利用の仕方を身に付けた児童 | ◆いろいろな種類の本を読み、課題解決に向けて、友達と関わり合いながら意欲的に学ぶ児童 | ◆目的に応じて、図書館を適切に利用し、学び方を身に付け、課題解決に向けて主体的・協働的に学ぶ児童 | ◆主体的に考えて判断し、課題解決に向けて多様な資料から必要な情報を活用することを通して、主体的・協働的に学び続ける生徒 | |
| | **4空間（Inspiration, Creative, Meeting, Learning）のある図書館の「場」でいきいきと学ぶ子ども** | | | | |
| 課題の設定と情報収集 | ○身近なことや経験したことなどから興味・関心に応じて学習課題を決める。 | ○興味関心に応じて具体的な課題を決める。 | ○目的を把握し、適切な学習課題を決める。 | ○学習課題を解決するための適切な資料や収集方法について考え、具体的な学習課題を立てる。 | |
| | ○題名や表紙などに着目して必要な図書を見つける。 | ○目的に応じて、複数の資料の中から必要な資料を選ぶ。 | ○目的に応じて、複数の資料の中から課題解決に役立つか判断し、資料を選ぶ。 | ○目的や意図に応じて多様な情報源を活用し、必要な各種資料を選ぶ。 | |
| | **Booktalkから関心を広げ、選書する** | | **Pathfinderを活用する** | | |
| 情報の活用 | ○資料の中から目的に合わせて情報を選ぶ。 | ○二つ以上の情報の中から、目的に合ったものを選ぶ。 | ○複数の情報の中から、適切な方法を使って課題解決に必要なものを選ぶ。 | ○複数の情報を目的に応じて比較、分類、関連付け、多面的・多角的に分析する。 | |
| | ○気づいたことや分かったことを記録し、<br>必要に応じて簡単な絵や文で書く。 | ○必要な情報を箇条書きで要点をまとめる。<br><br>○自分の考えを持つ。 | ○事実、引用、要約などと自分の考えを区別して、分かりやすくまとめる。<br><br>○構成、レイアウトを工夫したり、絵や文、グラフ、図や表などを使ったりして効果的にまとめる。 | ○様々な情報を比較、分類、単純化したり、情報追加したり、再構築したりする。<br><br>○情報を整理して、目的や意図に応じてわかりやすく要点を押さえて自分の意見の関係性を考えてまとめる。 | |
| | | **出典を明確にして資料を活用する** | | | |
| 情報の伝達と評価 | ○多様な発表方法を経験して表現する。<br><br>○順序に気を付けて、わかりやすく伝える。 | ○相手や目的に応じて適切な表現方法を選んで表現する。<br><br>○自分の考えがわかるように道筋を立てて、相手や目的に応じて伝達する。 | ○目的や意図に応じて効果的に表現するよう工夫する。<br><br>○考えたことや自分の意図がわかるように、構成を工夫しながら、目的や場に応じて伝達する。 | ○表現手段の特徴を理解し、相手や目的、意図に応じて効果を考えながら工夫して表現する。<br><br>○情報発信手段としての機器の特徴を理解し、根拠を明確にして効果的に伝達する。 | |
| | **ビブリオトークで解釈と判断、思考を伝える** | | | | |
| | ○教師とともに課題を決め、内容の見通しを持って課題解決できたか振り返る。<br><br>○友達の表現のよいところを見つけて感想を伝え合う。 | ○具体的な課題を決め、内容の見通しを持って計画を立て、課題解決できたか振り返る。<br><br>○友達の表現のよさについて意見を述べ合う。 | ○課題が適切で、見通しを持って内容や方法について学習計画を立て、解決することができたか振り返り、いかそうとする。<br><br>○学習課題や学習過程について友達の表現のよさを伝えたり、助言したりする。 | ○課題が明確なもので、課題解決に向けての内容、方法、表現が効果的であったか振り返る。<br><br>○表現、伝達されたものの中から、課題解決のために集めた情報の有効性、必要性、信頼性を判断し話し合い、いかそうとする。 | |

2026.4.1改訂